

2026 年 10 月 15 日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

CTC と日本 IBM、IBM Bob を活用した AI 駆動開発サービス「A-Native」で協業 新規アプリケーション開発と既存システム刷新を一貫して支援

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:新宮 達史、本社:東京都港区、略称:CTC)と日本アイ・ビー・エム株式会社(代表取締役社長:村田 将輝、本社:東京都港区、以下:日本 IBM)は、AI を活用して新規アプリケーションの開発と既存システムの刷新を支援するサービス「A-Native(エー・ネイティブ)」で協業し、CTC が同サービスの提供を開始します。日本 IBM が提供する「IBM Bob^{※1}」を中心とした AI 駆動開発ツールを活用し、アプリケーションの開発作業や、システム刷新に向けた調査・分析を支援します。価格は 500 万円(税抜き)からで、基幹システムや大規模な業務システムの改修、刷新を検討する企業に向けて展開し、3 年間で 50 社の導入を目指します。

近年、企業では事業環境の変化や人材不足を背景に、システム開発の迅速化と品質の安定化が求められています。一方、長年運用してきたシステムでは、改修の積み重ねによる構造の複雑化や、設計資料の整備不足といった問題を抱える場合もあります。そのため、改修を行う際の影響範囲の把握や刷新の判断が難しくなり、制度変更への対応遅れ、IT コストの増加、業務の属人化などの課題が生じています。

A-Native は、AI によるアプリケーションの開発、システムの構築や運用までを総合的に支援する AI 駆動開発を中核としたサービス群です。要件整理、設計、プログラム開発、テストなどの開発工程の効率化を図るとともに、既存システムの構造やソースコードを分析して改修範囲を把握し、段階的なクラウド移行やモダナイズをサポートします。AI を活用して開発作業を効率化する「A-Native Develop」、既存システムの分析・刷新を支援する「A-Native Modernize」、社内のナレッジ検索や文書作成、問い合わせ対応などに活用できる AI エージェントを開発・提供する「A-Native Agent^{※2}」の 3 つのサービスで構成します。

A-Native の中核となる A-Native Develop には、IBM Bob を採用しています。IBM Bob が要件整理から設計、実装、テストまでの開発工程を AI で支援し、開発作業を効率化します。監査ログ管理や作業承認などのガバナンス、セキュリティや運用管理など、企業システムに求められる要件にも対応しており、AI 利用に関する統制や管理プロセスを維持しながら AI 駆動開発を推進できます。

CTC は、企業向け大規模システム開発やクラウド基盤構築で培った技術力に加え、日本 IBM との技術検証で得た知見を活用し、要件整理や設計書作成などの開発作業を伴走型で支援します。今後も両社は、お客様の業務に合わせた AI エージェントの開発サービスも拡充し、更なる DX を支援していきます。

<A-Native のイメージ>

AI駆動開発を中核に、開発・システム刷新・業務へのAI活用を支援



A-Native Develop : 開発工程の効率化

要件整理から設計、プログラム作成、テストまで
AIで開発作業を支援

A-Native Modernize : システム分析の負荷軽減

既存システムをAIで分析し、改修範囲の把握や
クラウド移行、段階的なシステム刷新を支援

A-Native Agent : 情報活用・業務の効率化

社内のナレッジ検索、文書作成、
問い合わせ対応などをAIエージェントで支援

※1 IBM Bob は、AI エージェント駆動のエンタープライズ向け開発支援パートナーです。

<https://www.ibm.com/jp-ja/products/ai-coding-agent>

※2 A-Native Agent は 2026 年 12 月にリリース予定です。

※ その他、記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部

E-mail: press@ctc-g.co.jp

日本アイ・ビー・エム株式会社
広報

E-mail: pressrel@jp.ibm.com